

8. なぜ私たちは他人に親切にするのであろうか

大雪で列車が運行停止になり、高校入試に遅れそうになった親子連れがヒッチハイクを試み、たまたま乗せてくれたトラックの運転手が100キロほど遠回りして、受験会場まで送り届けてくれた。運転手は「田中」とだけ名乗って去って行ったという。なぜ彼はそんなことをしたのだろう。人が困っていればお互い様だから親切にしなければと思います。しかし、中には、いや損になるようなことはしないという人もいるかも知りません。しかし皆がそうなることと親切にする人がいなくなるだろう。なぜそんな事になっていないのだろう。

元々、動物も人間も自分が損することはしないものです。動物も人間も血縁関係のものには利他行動をします。それは種の保存のためです。人の親は、子に対して大変親切であります。無償で世話をし、大切にします。血縁関係にあるものは、自分の遺伝子を伝え、継承していくためであります。

このようなデータがあります。昨今、母親による子に対する虐待が問題になっておりますが、虐待が過ぎて子を死に追いやる率と継母が虐待で子を死に追いやる率に70倍の差があるといえます。もちろん多くの継母は立派に育てておられる方が多いのでありますが、膨大な外国の調査ではこれ位の差があるといえます。しかし、動物は種の保存以外ではあまり利他行動をしないそうです。

人はどうして助けるのか。例えば、あなたがたいそう貧乏で今日の食事にも事欠いている。一方、あなたの友人は大金持ちだ。あなたは友人か1000円を借りる。友人はあなたに1000円貸したので損である。しかし、金持ちの友人には損はたいしたことはない。しかし、あなたにとっては大変な価値である。あなたはお陰で飢え死にを免れ、その後頑張って大金持ちになった。一方、友人は手を出した株の大暴落で大変貧乏になった。そこで前に借っていた1000円を返したら友人は飢えを免れて助かった。差引きどちらも損をしないと言うわけだ。これを「互恵的利他行動」という。これは小さな集団

の中でおこなわれるもので、相手が分かるのでお返しが期待できる利他行動である。

今度は例えば、車でショッピングセンターに出かけたが、買い物を終えて駐車場に戻ろうとすると、突然雨が降ってきた。ずぶ濡れになるのがいやで暫く待っていると、ある人が傘を差し掛けてくれて、一緒に車の所まで行きましょうとってくれた。その親切さに感動したので、今後は自分もそういう人を見つけたら、同じように傘を差し掛けようと思った。傘を差し掛けた人は直接お返しをもらったわけではなく、傘を差しかけられた人のお返しは第三者に向かっていく。これを「間接的利他行動」というわけだ。それを見ていた第三者によって「あの人は親切な人だ」という「評判」が立てばその後のやりとりで利他的に振る舞ってもらえるだろうというわけだ。赤の他人への利他行動には直接的なお返しは期待できないが、それによって良い評判が得られれば、結局は得をするのでそのような行動が残っていくという。

しかし、先の運転手の話では、結局誰か知られる事は無かった。また、漫画『タイガーマスク』の主人公「伊達直人」が匿名で児童養護施設に寄付をする。このような人も匿名なので良い評判など立ちようがない。東日本震災に対する、個人レベルでの義援金についても同じことがいえるだろう。誰がいくら寄付したかなどは分からないからだ。これは寄付など利他的行動をすると脳の中の線条体が刺激されて、「快」と感じるようにできているようだ。

結論的には、一番の要因は「道徳性」である。困った人を助けるのが道徳的に正しいからだという意識が、人々の利他性を支える大きな要因であるという。

以上のことから考えると、ロータリーの「奉仕の理想」を推奨、推進するには、家庭に、職場に、地域社会や世界に「道徳性を高める」ことこそ大事なことだということになる。

【参考文献】小田亮著『利他学』新潮社、2011

以上

(「月信」2017年4月号)